

点滴脂肪乳剤の使用実態および適正使用に関する検討

○研究の意義・目的

脂肪乳剤は、静脈投与できる唯一の脂質製剤で、熱量補給、必須脂肪酸欠乏予防等の目的で使用されています。脂肪乳剤使用時は、人工脂肪粒子の代謝を考慮した投与速度 0.1g/kg/時以下が推奨されていますが、実際に点滴される時に、添付文書の内容に従っているものの、推奨速度を上回っている場合があります。今回、広島大学病院に入院された方の脂肪乳剤の使用実態を調査し、適正使用に向けての対策を検討します。

○研究の方法

平成 25 年 10 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日までに、広島大学病院入院中の患者で、脂肪乳剤を投与された患者を対象とします。

本研究は全て診療録（カルテ）情報を転記して行います。カルテから転記する内容は、①患者基本情報②血液検査データ③投薬歴です。（個人が特定出来る情報は転記しません）

*研究期間 平成 26 年 9 月 1 日（承認日）～ 平成 28 年 3 月 31 日

○個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心下さい。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出頂いても今後の診療等に不利益が生ずることは有りません。

不明な点がございましたら下記までお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

TEL : 082-257-5575

広島大学病院薬剤部

教授 松尾 裕彰（研究責任者）

薬剤師 森下 麻里（研究担当者）